

## 日本地熱学会 H26 学術講演会

(株) コベルコ科研 高橋知二



会場の弘前大学 50 周年記念会館

### 1. はじめに

日本地熱学会平成 26 年学術講演会が、2014 年 10 月 29 日から 10 月 31 日まで、弘前市にある弘前大学・創立 50 周年記念会館にて開催された。

地熱学会は、第二次石油ショックのあった 1978 年の 12 月に設立された地熱に対する研究開発と普及促進を目的とする会議体である。

その日本地熱学会の学術講演会は、研究報告会、総会および各種受賞講演の場でもあり、加えて一般市民を対象としたタウンフォーラムも毎年併設され地熱に対する理解と普及を図っている。

今年度は、4 月に開所された産総研・福島再生可能エネルギー研究所と NEDO プロジェクトおよび JOGMEC ((独法)石油天然ガス・金属鉱物資源機構) 関連のプロジェクト紹介を中心に、個別開発案件の途中経過報告という構成で進められた。

予定されていた酸ヶ湯温泉での地熱発電設備見学会は、残念ながら中止となった。

### 2. 概要

大会の参加者は 250 名、大会翌日のタウンフォーラムには 128 名が参加したとのことである。オーラルでの報告が 84 件、ポスターが 34 件。別枠として、特別企画『産総研福島再生可能エネルギー研究所における地熱・地中熱研究』と題しての同研究センターの組織および研究紹介が 6 件と意見交換があった。さらに、オーガナイズドセッション 1 として、『地熱資源探査における空中物理探査の役割』と題した物理探査学会との共同企画にて JOGMEC を中心とした空中からの物理探査技術について報告が 6 件とパネルディスカッション、オーガナイズドセッション 2 『地熱発電の現況と地熱発電導入拡大に向けた NEDO の取り組み』において、NEDO プロジェクト関連の成果報告 9 件、オーガナイズドセッション 3 『熱帯地域における地中熱冷房の実施例と将来展望』では、タイ、インドネシアにおいて進められている科研費による地中熱冷房実験の紹介が 5 件の報告によってなされた。

個別発表において最大の課題とされていたのは、やはりスケール対策である。岩手・葛根田地区での高シリカ熱水からのスケール除去法の検討、大分・八丁原地区での熱水中からのケイ酸除去とシリカ沈殿物の利用検討、雲仙・小浜温泉でのバイナリー発電におけるスケール付着防止法の検討など、数多くの報告がなされていたが、まだ決め手に欠けるようであり、今後とも継続した開発が必要な領域である。

産総研からは地熱資源に関する世界標準スキームの必要性について、報告がなされた。日本は地熱資源では世界 3 位の保有量を誇るといわれている。しかし、地熱資源の定義自体が各国で異なっており、用語のあいまいさも残されたままとなっている。世界の統一された分類で再評価する必要がある。IGA(International Geothermal Association)の活動の一環として、用語の整理、地熱タイプのリスト化、分類スキーム構築に取り組んでいる、とのことであった。

### 3. まとめ

地熱学会は、地熱活用普及のための活動を積極的に展開しており、本学術講演会併設のタウンフォーラムをはじめ、一般市民向けの催しも多くの都市で展開するなど、地道に取り組んでおり敬意を表したい。安定した持続可能な熱源として、地熱活用は進

んでいくし、進められていくべきと考える。

長年地熱発電設備の建設が滞っていたが、規制緩和と固定価格買取制度により、2012年より開発活動が活発となってきている。現在、20近い地熱開発プロジェクトが進行しており、その成果を期待したい。

以上